

実践**福島県多言語高校進学ガイドブック作成と配布体制構築の試み**

—地域のリソースを活用して—

三田眞理子 奥秋和夫 吉田千鶴子
常松勇佑 (こおりやま日本語教室)

外国人散在地域である福島県では、来日3年以内の生徒に対し県立高校入試特別枠制度がある。しかし、その仕組みや内容は、対象となる受験生や保護者にあまり知られていない。当教室でも受験に向けた個別の対応が課題となっている。昨年は高校進学ガイダンスを実施し、進学体験談、ルビ付き日本語版ガイドブックの配布、ガイダンスの通訳などを取り入れたが、受験内容の正しい理解にはなかなかつながっていない。

そこで、対象となる受験生や保護者ひとりひとりが受験の仕組みをそれぞれの母語でよく理解した上で、進路を決定できるように支援することを目的とし、『多言語高校進学ガイドブック』を作成した。さらにガイドブックの普及に努め、県内の全中学校への配布を試みたほか、こおりやま日本語教室のWebサイトを立ち上げ、ガイドブックがダウンロードできるページを作成し、公開した。

『多言語高校進学ガイドブック』作成にあたり、地域のリソースを活用することができた。資金調達のために行政主催の助成金申請の勉強会に参加し、助成金の獲得に至った。ホームページ作成は地元のNPOに依頼、各言語の翻訳は地域の各国際交流団体に呼びかけ、5か国語の翻訳に至った。

外国ルーツの子どもと保護者を対象に郡山市と福島市の2会場で開催された高校進学ガイダンスでは、支援者を含む参加者にガイドブックを配布し、通訳付きで解説することができた。また、県中・県南地域では、教育事務所の協力を得、希望する学校へのガイドブック配布に至った。

しかしながら、その他の自治体の教育担当部署には、ガイドブック配布の協力が得られておらず、今後、全中学校への配布をどう実現させていくか、検討していかななくてはならない。

また入試制度改正などに伴い、ガイドブックの改定が必要になった場合、今回のような地域リソースの活用や財源の確保をいかに実現させるかについても、今後考えていかななくてはならない。